

高潮ハザードマップとは

高潮ハザードマップは、最大規模の高潮による浸水想定区域を示したマップです。兵庫県が実施したシミュレーションに基づいて作成しています。

日本にcoming台風は、赤道付近の海上で発生し、勢力を拡大しながら日本に接近してきます。近年は地球温暖化の影響による海水温の上昇などのため、台風が巨大化しており、高潮による被害が激甚化する可能性があります。

「もしも高潮が発生したら…」を想定し、どの程度の被害となるのか、発生しそうな時に何をすればよいのか、日頃から何に気を付けて備えておくべきなのかについて考えてみてください。

高潮浸水想定区域について

想定し得る最大規模の高潮とは、日本に接近した台風のうち既往最大規模の台風（室戸台風：中心気圧910hPa）が、満潮時に潮位偏差が最大となる経路を通過した場合に発生し得る高潮を想定しています。

高潮浸水想定区域図は、この高潮と同時に河川の洪水を考慮し、全ての防潮堤・堤防や水門・陸閘等は、設計条件を超えた段階で破壊されることを基本とした、最大の被害となるシミュレーション結果を示したものです。



高潮時の海洋文化センターの様子（平成16年）

高潮発生メカニズムと注意する場所

高潮発生メカニズム

高潮は、「吸い上げ」や「吹き寄せ」という現象により、海水が堤防や防潮堤を越えたり、破壊して発生する浸水です。

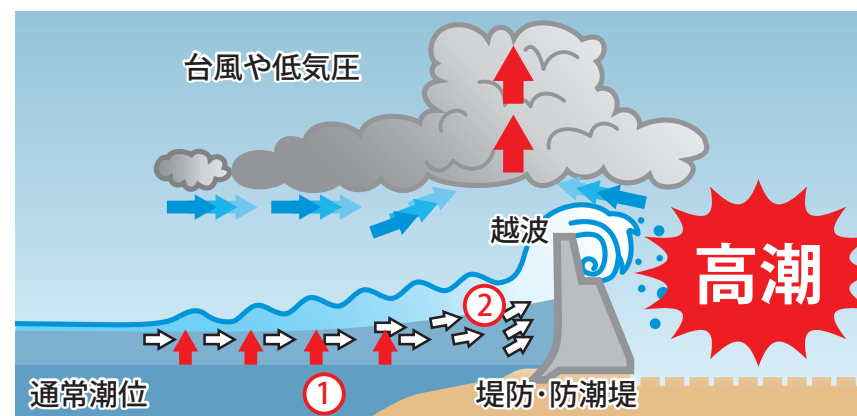
これらの現象が満潮時と重なると、より一層被害は大きくなります。

①吸い上げとは

台風など低気圧が接近したときに、空気が海面を押さえつける力が弱くなり海面が持ち上げられること。

②吹き寄せとは

海上から海岸に向かって風が吹き続けることにより、海面が高くなること（風が長く吹き続けるほど海面は高くなります）。



注意する場所



高潮は河川を遡上します。そのため、海から離れた場所でも河川を遡上してきた高潮により氾濫する可能性があります。台風襲来時には、大雨で河川の水位も増大しており、大変危険です。



港内では波が反射を繰り返し、共振現象（波の山と山が重なる現象）を起こして波が大きくなる場合があります。

想定し得る最大規模の台風による高潮とは

想定条件（500年から数千年に1度程度の台風）

台風の中心気圧

910hPa

室戸台風

台風の移動速度

73km/h

伊勢湾台風

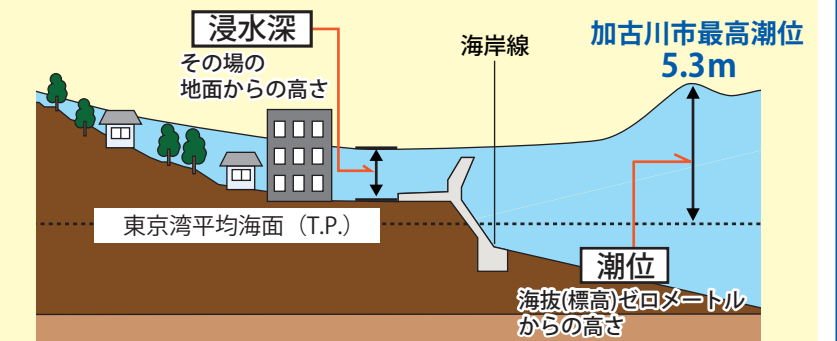
播磨沿岸・淡路沿岸

に影響の大きな
複数の経路

1. 台風の中心気圧は日本に上陸した既往最大規模の台風である室戸台風（910hPa）とし、上陸しても一定のまま勢力を保ち続けると想定
2. 台風の速度は日本の台風被害で最大となった伊勢湾台風（73km/h）とし、一定のまま移動（台風の移動速度が速いほど最大風速が大きくなる）
3. 台風の経路は播磨沿岸・淡路沿岸において、大きな影響を受ける経路を複数想定
4. 河川においても高潮の影響を受けて水位が高くなっている状況での氾濫を想定
5. 堤防等は、最悪の事態を想定し、潮位（水位）や波が一定の条件に達した段階で破壊

潮位と浸水深の違い

潮位は、浸水深とは異なります。潮位は沖合での海拔（標高）ゼロメートルからの高さで、浸水深とは地面から浸水面への高さです。



暴風・強風にも注意

高潮のおそれがある場合、台風や低気圧により、暴風や強風が伴うことが考えられます。

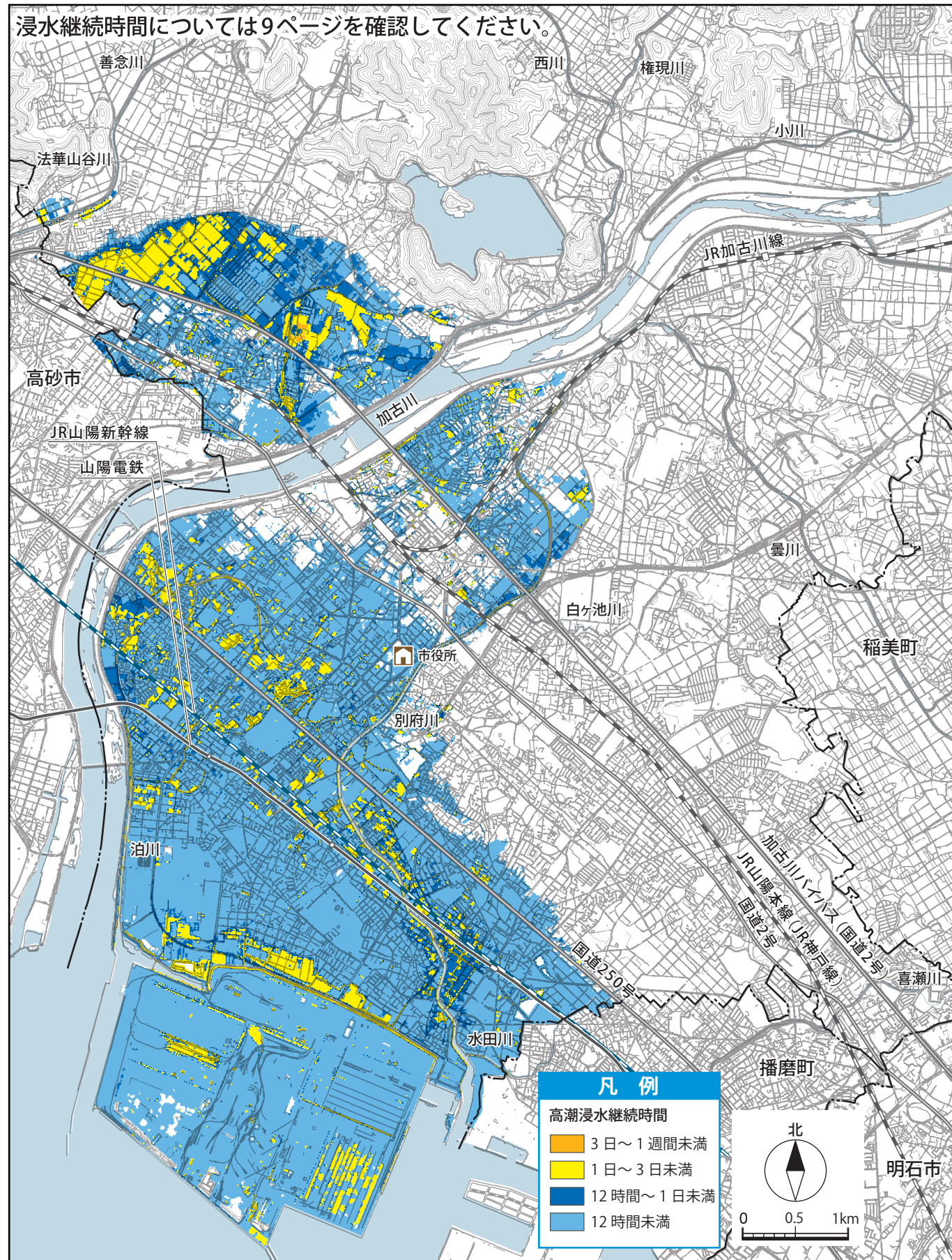
風の強さは避難行動に影響します。風や雨が強まる前に避難しましょう。

予報用語 (平均風速)	やや強い風 10m/s~15m/s 未満	強い風 15m/s~20m/s 未満	非常に強い風 20m/s~25m/s 未満	非常に強い風 25m/s~30m/s 未満	猛烈な風 30m/s 以上
屋外の様子					
人や走行中の車等への影響	風に向かって歩きにくくなる。 高速運転中では横風に流される感覚を受ける。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人もいる。 高速道路での運転が困難。	何かにつかまっていなくて立っていられない。 飛来物によって負傷するおそれがある。 通常で運転するのが困難になる。	屋外での行動は極めて危険。 走行中のトラックが横転する。	多くの樹木が倒れる。 ブロック塀や住家が倒壊を始める。

高潮浸水継続時間ハザードマップ

高潮浸水継続時間：兵庫県が令和4年に公表した高潮浸水想定区域図（浸水継続時間）に基づいて作成
この地図は、浸水の深さが50cm以上になってから50cmを下回るまでの時間の最大値を図化したものです。

浸水継続時間については9ページを確認してください。



高潮ハザードマップ

高潮浸水想定区域：兵庫県が令和2年に公表した高潮浸水想定区域図に基づいて作成

